

デマ盲信の村人による虐殺

「福田村事件」が明かす「朝鮮人虐殺」の真実

小林寿太郎

行商の日本人集団も虐殺された

100年前の1923年9月1日、関東大震災が起き東京、神奈川を中心に大火災と家屋倒壊などで約10万人が死亡する大惨事となりました。私の祖先は浅草に住んでいましたが上野公園に避難して何とか命は助かりました。

上野公園には何万人もの人が避難してほぼ全員が助かりました。一方、両国近くの陸軍被服廠跡には広大な空地があり、そこにも何万人もの人が避難しましたが猛火に包囲されほぼ全員が死にました。今は都立横網公園となり震災慰霊堂があります。

震災時、朝鮮人が暴動を起こしているというデマが飛び交い、各地で住民による自警団が朝鮮人を虐殺しました。祖父によれば浅草でも至るところで朝鮮人が惨殺されました。また中国人や日本人も虐殺されていますが福田村事件もその一つです。

千葉県東葛飾郡福田村（現在の千葉県野田市三ツ堀）でも朝鮮人が暴動を起こしているというデマが飛び交い住民は日本刀、竹槍、猟銃などで武装して自警団をつくり警戒していました。そこに香川県から薬の行商にきた幼児も含む家族連れ15名が通りかかりました。

行商の一行は茨城県に行くため県境の利根川の船着場にいたところ、自警団は朝鮮人に違いないと言って襲撃、9名を虐殺（胎児を含めると10名）しました。襲撃の最中、巡査が駆け付けて虐殺を止めたので6名は生き残りました。

この事件は福田村とその周辺ではタブーとされ香川県に帰った6名も黙っていたので長い間、歴史の闇に隠されてきました。近年になり市民団体などの調査でようやく全貌がわかりました。

またドキュメンタリー作家、森達也さんの監督による映画「福田村事件」が上映され大きな反響を呼んでいます。虐殺から100年になる9月6日、現地で追悼式が開かれました。式には香川県から来た被害者の子孫、加害者である福田村住民の子孫、身を挺して虐殺を止めた巡査の子孫、事件を解明した市民団体、行政当局者、僧侶などが参列しました。

普通の村人がなぜ虐殺を？

また社会的関心も広がり共同通信、NHK、NTV、朝日新聞、毎日新聞、千葉日報などのマスコミも取材に訪れていました。私は途中の駅で韓国から来た学生と偶然、知り合い会場まで案内しました。彼はソウルの建国大学の学生ですがこういう説明をしていました。

「韓国の学校では関東大震災でたくさんの方が死んだことは教えていますが朝鮮人大虐殺については触れていません。数年前にその事実を知った時は衝撃でした。もっと知りたくて日本に来ました。」

会場では韓国から学生が追悼に訪れたということでマスコミから取材攻勢を受けていました。映画「福田村事件」ですが、自警団による虐殺を糾弾するというより普通の村人が何故、残虐行為をやったのかということがテーマのようです。

ただストーリー展開に不自然なところもあります。利根川に浮かぶ渡し舟のなかでブルジョアの令嬢（田中麗奈）と船頭が突然、激しく愛し合い、その最中に大地震が起きるという場面は少し不自然だと思いました。また東京新聞の記者、望月さんも村の娘さん（主婦？）役で出演しています。